

資料 2

平成 2 8 年度

第三回森林環境保全基金運営委員会

～平成 2 9 年度森林環境税活用事業の審議～

日時：平成 2 9 年 1 月 1 8 日 (水) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場所：高知共済会館「浜木綿」

高知県林業環境政策課

目次

1. 公益林保全整備事業(木材増産推進課)	P1
2. みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	P3
3. 森林・山村多面的機能発揮対策支援事業(林業環境政策課)	P5
4. くくりわな捕獲推進事業(鳥獣対策課)	P7
5. 希少野生植物食害対策事業(環境共生課)	P9
6. 環境学習推進事業(生涯学習課)	P11
7. 高校生森林環境理解事業(高等学校課)	P13
8. 高校生後継者育成事業(高等学校課)	P15
9. 山の学習支援事業(林業環境政策課)	P17
10. 森づくりへの理解と参加を促す広報事業(林業環境政策課)	P19
11. こうち山の日推進事業(林業環境政策課)	P23
12. 運営委員会等開催費(林業環境政策課)	P27
13. 林業学校研修業務等委託料(森づくり推進課)	P29
14. 木の香るまちづくり推進事業(木材産業振興課)	P31

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

1

① 事業名	・細目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・当該事業名：公益林保全整備事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

② 事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)		98,025	35,983	37,630	32,000	39,200
財源内訳	森林環境税	98,025	35,983	37,630	32,000	39,200
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	1) III～XII 齢級の保育間伐による森林整備 2) 関係機関へのPR
----------	--

④ 事業内容(手段)

- 交付対象の森林
III～XII 齢級の保育間伐による森林整備
- 交付の条件
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林

上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等へ掲載するとともに、森林環境税のPRを図るため、さんSUN高知への掲載や関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成29年度計画】 実施面積 490ha

⑤ 【補助の流れ】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[市町村]
      B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

④ 現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	● 事業開始年度 平成24年度
<p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担を軽減を図るよう取り組んでいる。 平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐した材を1ha当たり10m3以上搬出することが必須条件となった。 また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。 しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度から7齢級までの保育間伐が復活された。 このため、森林環境税を効率的に活用して、平成28年度以降も造林事業への誘導を進めていく。 当事業は、国庫補助事業で採択されない森林所有者のセーフティーネットとして要望も強く、事業規模等については検討を図っていく。</p>	
⑤ 目的とねらい(成果)	
<p>(本事業の目的) 水源かん養機能等の公益的機能が高い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>(意図すべき成果) 森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>	
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 森林所有者 ● 保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、III～XII 齢級の人工林の保育間伐 	

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

1

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績(見込)
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数(件)	330			270
	算定式				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積(ha)	490			400
	算定式				
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1ha当たりの事業コスト(間伐) (円)	80,000			80,000
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

① 当初 ② 中間 ③ 実績

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	森本 大貴
内線	4602

2

①	事業名	・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業
	大区分	森林環境の保全を進める事業
	小区分	森林整備

③	主な事業内容	・人工林（Ⅲ～Ⅸ齢級）の除・間伐による森林整備
---	--------	-------------------------

④ 現状と課題（これまでの経過や事業実施の背景） 事業開始年度 平成19年度

森林吸収源対策に向けて除・間伐を実施するとともに、森林所有者の負担を軽減することで持続可能な森林づくりに取り組んでいる。しかし、平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定して、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、補助採択要件に施業の集約化と間伐した材を一定量搬出することが付された。このことから、従来採択してきた保育間伐では、平成23年度から補助対象外となる森林が出てきたことなどから、当事業が活用され難い状況となっていた。しかし、平成25年度から保育間伐が一定の条件付きで補助対象として追加され、さらには平成26年度から、7齢級までの保育間伐が補助対象として復活した。

このため、平成26年度から除・間伐（保育）に要する森林所有者負担金の軽減を図る目的で、当事業での高上げ支援を復活させた。あわせて、事業発足当時と比較し森林資源の構成齢級が上がってきていることから、補助対象齢級の上限を引き上げを行った。

この事業は、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。

⑤ 目的とねらい（成果）

（本事業の目的）
CO2吸収効果の高い人工林の間伐及び自助努力によって適切な森林整備が期待できない森林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。

（意図すべき成果）
森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森林づくりを推進する。

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）

●森林所有者
●造林事業、人工林（Ⅲ～Ⅸ齢級）の除・間伐（保育）

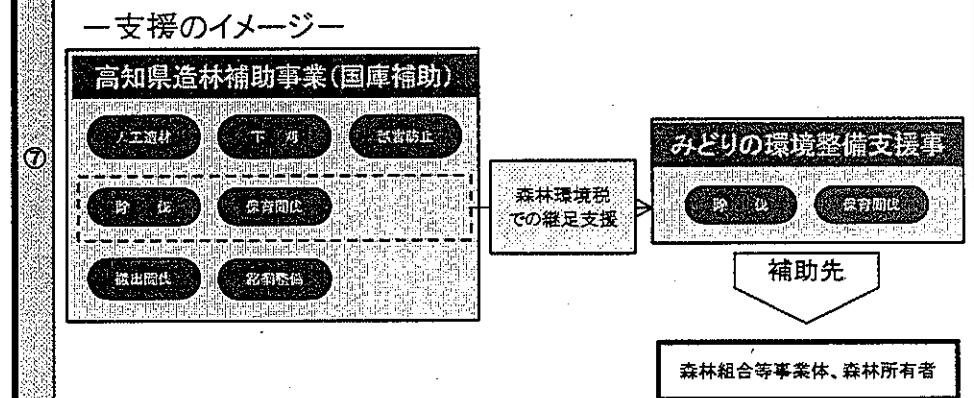
事業費の推移	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (見込み)	H29 (予算額)	
総事業費 (千円)	8,534	38,058	38,973	24,000	34,512	
財源内訳	森林環境税	8,534	38,058	38,973	24,000	34,512
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）

●交付対象の森林 人工林（Ⅲ～Ⅸ齢級）の除・間伐（保育）による森林整備
●交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

上記の要件を満たしたものについては、各事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。
また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成29年度計画量】 実施面積 1,194ha



平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

⑧ 当初・中間・実績

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	森本 大貴
内線	4602

2

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H29実績比率
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業実施件数 (件)	400			280
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	1,194			841
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1ha当たり事業コスト (円)	(除伐) 35,000	(除伐) 35,000	(除伐) 54,000	
	算定式	事業費÷事業実施面積			
	1ha当たり事業コスト (円)	(保育間伐A) 35,000	(保育間伐A) 35,000	(保育間伐A) 35,000	
	算定式	事業費÷事業実施面積		(保育間伐B) 30,000	(保育間伐B) 30,000
		(保育間伐C) 23,000	(保育間伐C) 23,000	(保育間伐C) 23,000	(保育間伐C) 23,000

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初)中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

3

① 事業名	・ 細目事業名： 泉民参加の森づくり推進費 ・ 細々目事業名： 森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費 ・ 当該事業名： 森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

事業費の推移				H29(予算額)
総事業費(千円)				15,558
② 財源内訳	森林環境税			15,558
	一般財源			
	その他			

③ 主な事業内容	里山林の保全管理や資源を利用する活動を支援する、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金による地域の取り組みに対し補助する。
----------	---

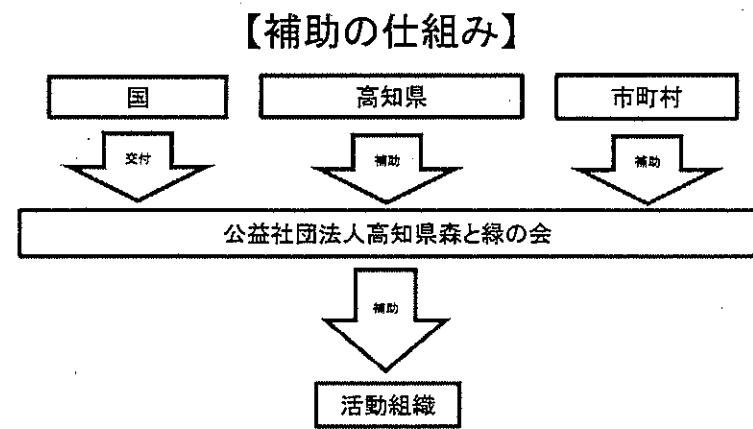
⑦ 事業内容(手段)

- 事業区分
 - (1) メインメニュー
 - 【地域環境保全タイプ】
 - ・ 集落周辺の美しい里山林を維持するための景観保全・整備活動、松林の健全性を維持するための保全活動、風倒木や枯損木の除去、集積、処理。(2万円/ha)
 - ・ 高密度に侵入したモウソウチク等の侵入竹の伐採・除去や利用に向けた取組。(4.75万円/ha)
 - 【森林資源利用タイプ】
 - 里山林に風存する広葉樹等の森林資源を木質バイオマス、炭焼き、しいたけ原木等及び伝統工芸品原料に活用することを目的とした樹木の伐採、玉伐り、搬出等。(2万円/ha)
 - (2) サイドメニュー (メインメニューと組み合わせることにより実施が可能。)
 - 【森林機能強化タイプ】
 - 事業の円滑な実施や森林の多面的機能の維持・発揮に必要な路網や歩道の補修・機能強化活動等。(100円/m)
 - 【教育・研修活動タイプ】
 - 森林環境教育及び上記(1)メインメニューの活動と併せて行う森林施業技術の向上に向けた研修活動等。(6,000円/回)

④ 現状と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成29年度
○平成25年度に国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金が創設され、里山林の保全管理や資源を利用する活動を行う団体に対して支援が行われるようになった。(国費のみで県・市町村の負担必要なし) ○当初、国の交付金事業は平成28年度までの予定であったが、平成33年度まで継続されることになった。これに伴い、現在国において事業の仕組みの見直しを行っており、その中で、地方公共団体が一定の金額(1/4相当)を負担する案件を優先採択することが決定している。		

⑤ 目的とねらい(成果)	<背景と目的>森林の有する多面的機能を発揮するためには、適切な森林整備や計画的な森林資源の利用が不可欠だが、林業の不振、山村地域の過疎化・高齢化により森林の手入れを行う地域住民が減少し、適切な森林整備等が行われていない箇所が見られる。そのため、地域住民等による森林の手入れ等の共同活動への支援を行うことが必要である。
--------------	--

⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	地域住民、森林所有者、自伐林家等
-------------------	------------------



平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

3

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	竜川
内線	3140

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	注
I 活動指標 (アウトプット)	事業実施団体数	60			/
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	地域環境保全タイプのうち里山林整備面積 (ha)	500			/
	算定式				
	地域環境保全タイプのうち侵入竹の伐採・除去等 (ha)	50			/
	算定式				
	森林資源利用タイプ森林整備面積 (ha)	80			/
	算定式				
森林機能強化タイプ (m)	5,000			/	
算定式					
教育・研修タイプ (人)	1,000			/	
算定式	20人×50回				
III 効率指標 (事業コスト)	各森林整備事業1ha当たり事業コスト (円)	(里山整備) 20,000 (侵入竹の伐採・除去等) 47,500 (森林資源利用タイプ) 20,000			/
	算定式				
	森林機能強化タイプ1ha当たり事業コスト (円)	100			/
	算定式				
教育・研修タイプ一人当たり事業コスト (円)	300			/	
算定式	事業費(6,000円×50回)÷人数(1,000人)				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

今後の方向性	変更しの方針に際する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

総合評価	説明(担当書記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	9042

4

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：くくりわな捕獲推進事業費
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
② 総事業費 (千円)						16,000
財源内訳	森林環境税					16,000
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	県内の山林等に広範囲に生息するシカの個体数を調整するため、わな猟免許所持者（希望者）にくくりわなの購入経費（上限2万円/人）を市町村経由で補助し、捕獲の推進を図る。
----------	--

⑦ 事業内容（手段）

市町村を通じて、わな猟免許所持者に対してくくりわなの購入費上限20,000円を補助する。

平成29年度補助予定者数：800人
(800人×20,000円=16,000,000円)

補助の仕組み

```

    graph TD
      A[高知県] --> B[市町村]
      B --> C[わな猟免許所持者]
    
```

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成29年度
シカの個体数の増加や生息域の拡大により、特に県の東部と西部で食害による農林業被害や自然植生被害が深刻化している。このため、シカの個体数を調整することが必要である。		
H25～H27：くくりわなの配付 H28：銃猟によるシカの捕獲 H29～H31：くくりわな購入に対する補助（予定）		
シカの捕獲効果が高く、高評価であったくくりわなの配付に続き、平成29年度は、地域や技術に応じた使い勝手の良いわなの購入経費の支援を行い、県全体でさらなるシカの捕獲に取り組む。		
⑤ 目的とねらい（成果）		
(本事業の目的) シカの個体数の増加や生息域の拡大によって、シカの被害が拡大・深刻化していることから、捕獲地域やわな猟持者の技術に応じた使い勝手の良いわなを選択して架設することにより、捕獲効率を向上し広域的にシカの捕獲を推進するため、市町村を通じてくくりわなの購入を支援する。		
(意図すべき効果) シカの個体数を抑制することで、農林業被害や自然植生被害を軽減させる。		
⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）		
県内のわな猟免許所持者		

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

4

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	9042

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	補助者数 (人)	800人	/	/	-
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	H29年度農林業被害軽減 (千円)	11,602千円	/	/	/
	算定式 $\frac{\text{平成27年度農林業被害額} - \text{平成29年度農林業目標被害額}}{79,602千円 - 68,000千円} = 11,602千円$				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	被害額軽減率 (%)	85%	/	/	/
	算定式 $\frac{\text{平成29年度目標農林業被害額}}{\text{平成27年度農林業被害額}} = 85\%$				

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

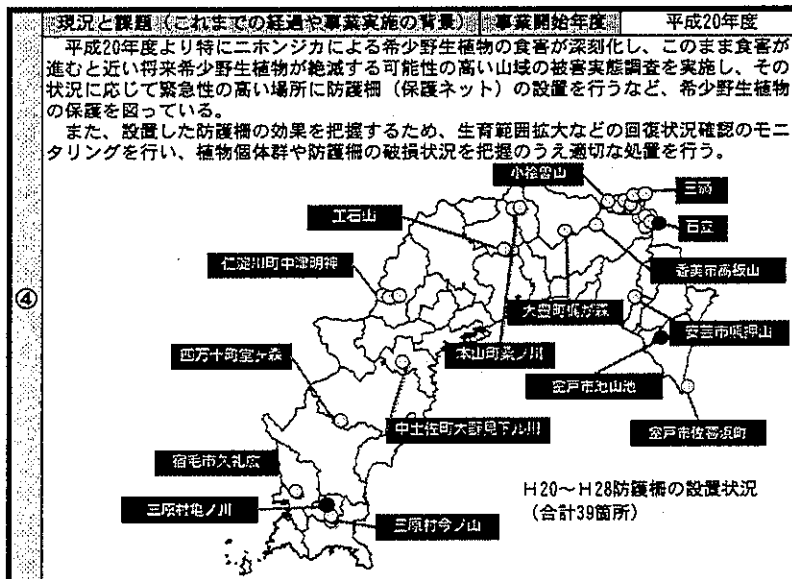
(当初)中間・実績

担当課・係名	環境共生課(自然公園)
担当者	久保
内線	4842

5

① 事業名	・細目事業名：希少動植物保護対策事業 ・細々目事業名：希少野生動植物保護対策事業 ・当該事業名：希少野生植物食害対策事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な事業内容	1) 希少野生植物の食害状況調査、防護柵設置候補地選定、防護柵設置計画作成 2) 防護柵設置、防護柵の補修 3) 防護柵設置後のモニタリング調査
----------	--



⑤ 目的とねらい(成果)	(事業の目的) 県内の山岳地帯において、ニホンジカによる食害が非常に拡大しており、希少野生植物にも大きな被害が発生しているとの情報が、民間の自然保護団体などから寄せられている。 県では、ニホンジカによる希少野生植物への影響を十分に把握していないため、被害の実態を調査するとともに緊急にその対策を講じる必要がある。
(意図すべき成果)	全県的な被害状況を把握し、現地調査等を行い急激な食害進行に早急に対応し、希少野生植物の保護に努める。
⑥ 対象(誰、何を対象とするのか)	県内に分布する保全上重要な野生植物

事業費の推移	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)	H28(見込額)	H29(予算額)
② 総事業費(千円)	11,311	9,079	9,140	8,029	8,527
財源内訳					
森林環境税	11,311	9,079	9,140	8,029	8,527
一般財源					
その他					

⑦ 事業内容(手続)

- ① 調査・検討・対策計画
野生植物に関する専門的知識を持つ者による希少野生植物の食害状況等の調査の実施及びその結果、専門的知見により防護柵(保護ネット)設置計画を立てる。
防護柵設置時には現地で作業指示を行う。
【H29年度予定：調査県内5箇所、柵設置指導/3箇所】
- ② 対策の実施(防護柵設置)
防護柵(保護ネット)設置計画に基づき、野生植物の専門知識を持つ者の指示のもと、防護柵設置作業を行う。
防護柵(保護ネット)の設置にあたっては、急斜面等への設置等、普通技術者による作業が困難な事態も予測されるため、管轄の森林組合に資材の調達・設置作業を委託する。
【H29年度予定：3箇所 香美市石立山 50m 三原村亀ノ川 100m、室戸市池山池 150m】計300m
- ③ モニタリングの実施
昨年度までに設置した保護ネットの効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングや現地ヒアリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行う。
【H29年度予定：全箇所点検、モニタリング調査11/39箇所】

(1年目)

調査・検討・対策計画検討

高知県立牧野植物園に委託
シカの捕獲データや希少野生植物の分布など現地調査を行い、次年度以降の防護柵設置計画を作成

(2年目以降)

対策の実施(防護柵設置)

管轄の森林組合に委託
設置計画に基づき、防護柵を設置

(3年目以降)

モニタリングの実施

県内コンサルタント会社(植生調査実績あり)に委託
植生の回復状況や、現地のモニタリング調査を実施し、防護柵の効果を把握。全箇所防護柵の破損状況を点検し軽微な修繕も実施。

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	環境共生課(自然公園)
担当者	久保
内線	4842

5

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績見込
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	食害拡大地域の現地調査箇所数 (箇所)	5	/	/	5
	算定式 調査箇所数				
	防護柵設置(柵延長距離)(m)	300	/	/	550
	算定式 柵延長距離				
II 成果指標 (アウトカム)	植生回復状況(各調査地点1m当りの 植被率(X)の推移)(%)	70%	/	/	94%
	算定式 植被率(X)が柵内柵外の方 形区数÷柵内方形区調査(H27以 前設置)数(X)				
	防護柵新設により保護される希少 植物優先度点数(点)	48	/	/	33
	算定式 高知県レッドリスト・環境省レッドリ スト・高知県固有評価の3つ別配 点による点数				
III 効率指標 (事業コスト)	防護柵1m設置に係る経費(円)	12,077	/	/	6,303
	算定式 事業費(調査+設置)÷新規柵 延長				
	設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費 (円)	125,744	/	/	123,295
	算定式 事業費(モニタリング調査)÷柵の 点検箇所(H28以前設置)数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は 妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	/
⑨ II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	/
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	/

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	/

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	/

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	生涯学習課
担当者	倉松 新
内線	4629

6

① 事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業 ・当該事業名：環境学習推進事業 ：体験活動推進事業 ：森の子ども会議推進事業
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

③ 主な業務内容	・指導者養成研修委託にかかる事務 ・体験活動推進事業にかかる事務 ・森の子ども会議推進事業にかかる事務
----------	---

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成23年度
<p>平成22年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのためには、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材の育成が重要である。 また、子どもだけでなく大人も含めみんなが森を大切に、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。</p>		

⑤ 目的とねらい（成果）	<p>◇環境学習推進事業 自然体験活動や環境学習を推進するために、体験活動等に関する情報の提供、指導者の養成に取り組む。 ○指導者養成研修等委託業務（自然体験インストラクター） 幼少期から青少年等の幅広い年齢層を対象とした自然体験活動プログラムの企画・実施ができる指導者の養成及び指導力向上のための研修会を実施する。 ○情報共有・情報提供 高知体験学習ガイドポータルサイトにおいて、自然体験・環境学習に関する情報（イベント、各種団体、場所等）を県民に広く提供するとともに、青少年の体験活動の意義や効果について啓発を図る。 あわせて、自然体験活動指導者に対し、安全管理や活動プログラム等に関する情報を提供することにより支援を行う。</p> <p>◇体験活動推進事業 子どもの体験活動の機会を増やすため、身近な場所で、豊かな活動体験を提供できる指導者を地域の青少年育成団体等に派遣する。 ・親子を対象とすることで、保護者に対して体験活動の在り方を啓発する。 ・既に体験活動を行っている団体においても、新たな分野の活動が提供されることで、活動の幅が広がるとともに、団体と指導者の連携が促進される。 ・指導者養成研修等の研修を修了した指導者の活動の場が広がり、指導者自身の指導スキルが向上が期待できる。</p> <p>◇森の子ども会議推進事業 子どもだけの実行委員会を組織し、子どもが主体的に中山間地域の活性化のために、森林や林業などの課題を解決するためのプロセスを体験する。また、地域課題解決プロジェクトを実行することで、市町村の枠を超えた地域コミュニティの活性化と新たなキャリア教育のモデルを構築する。</p>
--------------	---

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	<p>○指導者養成研修等委託業務：自然体験活動の指導に関する研修の受講経験者、自然体験活動や環境学習の指導及び指導補助の経験者 ○体験活動推進事業：子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、県内小中PTA（親子行事等） ○森の子ども会議推進事業：小学生、中学生、高校生</p>
-------------------	--

事業費の推移		H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)	H28(見込額)	H29(予算額)
総事業費(千円)		1,788	616	1,088	1,288	1,288
② 財源内訳	森林環境税	1,788	616	1,088	1,288	1,288
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）	<p>○指導者養成研修等委託業務 自然体験活動や環境学習の企画・運営、各団体間の連絡調整を行う指導者の養成及び指導力向上を目指した研修会の実施。 研修事業の企画と実施業務を委託する。 安全管理や自然体験活動の企画・運営に関する知識技能等22.5時間の研修を実施する。</p> <p>○自然体験活動指導者研修の修了者が、スキルアップを図るために森林保全ボランティア団体の実施する間伐体験を活用する。なお、林業振興・環境部林業環境政策課と連携して情報提供を受けるものとする。 また、自然体験インストラクターの資格取得に必要な演習について、青少年教育施設の主催事業を紹介する。</p> <p>○体験活動推進事業 自然体験活動指導者研修の修了者をはじめ自然体験プログラムを提供できる経験豊かな指導者を地域の少年団体などへ派遣する。</p> <p>○森の子ども会議委託業務 「森の子ども会議」の企画、運営、議事進行、事業実施をサポートするために、コーディネーターが助言や関係機関との連絡・調整、周知・広報などのサポートを行う。</p>
------------	--

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

当初 中間・実績

担当課・係名	生涯学習課
担当者	倉松 新
内線	4629

6

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28見込値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	自然体験活動指導者研修実施数	1	/		1
	算定式 1回				
	体験活動派遣数	10			15
	算定式 10箇所				
⑧ II 成果指標 (アウトカム)	自然体験活動インストラクター研修参加者数	24	/		2月実施
	算定式 24人				
	子どもの参加者数	100			341
	算定式 10人×10箇所				
⑧ III 効率指標 (事業コスト)	自然体験活動インストラクター研修参加者1人あたりのコスト	16,458	/		2月実施
	算定式 自然体験活動インストラクター研修事業費÷参加者数				
	子どもの参加者1人あたりのコスト	2,000			1,316
	算定式 講師謝金等報償費÷子どもの参加者数				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
⑨ III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

① 当初 ② 中間 ③ 実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

7

① 事業名	・ 細目事業名：森林環境保全事業 ・ 細々目事業名：高校生森林環境理解事業 ・ 当該事業名：高校生森林環境理解事業
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
② 総事業費 (千円)		884	863	634	671	979
財源内訳	森林環境税	884	863	634	671	979
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
----------	---

④ 事業内容 (手段)	<p>学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品の製作を行い地域への配布 小学生・保護者対象の木工教室の開催 高校生が講師となり中学校への出前授業</p> <p>実施予定校 ・ 四万十高等学校 ・ 高知北高等学校 ・ 幡多農業高等学校</p>
⑤	
⑥	
⑦	

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度 平成20年度
④	体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることが出来るようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含めより効果的な環境教育を推進していく必要がある。
⑤ 目的とねらい (成果)	四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、森林総合研究所、牧野植物園でのフィールドワークをとおして森・川・海と結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品を製作し地域の保育園等に配布し将来の木材需要の向上を図る。
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県内河川及び山 (生徒)

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

7

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績見込値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数(回)	20			27
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	取り組み回数(回)	20			27
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	取り組み1回あたりに要する経費(円)	48,950			24,825
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

8

①	事業名	・細目事業名：森林環境保全事業 ・細々目事業名：高校生後継者育成事業 ・当該事業名：高校生後継者育成事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)	
②	総事業費 (千円)	182	219	354	392	640	
	財源内訳	森林環境税	182	219	354	392	640
		一般財源					
	その他						

③	主な事業内容	林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。
---	--------	--

④	事業内容 (手段)	車両系建設機械運転技能講習の受講 (30人予定) 可搬式林業機械研修の受講 (35人予定)
	実施予定校	・高知農業高等学校 (車両10人、可搬20人) ・幡多農業高等学校 (車両10人) ・窪川高等学校 (車両5人、可搬7人) ・橘原高等学校 (車両5人、可搬8人)

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことが出来たが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。		

⑤	目的とねらい (成果)	将来の林業従事者予定者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。
---	-------------	---

⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)	資格 (生徒)
---	------------------	---------

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

④ 当初 中間・実績

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

8

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績見込値
I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数 (回)	7			7
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数 (人)	65			47
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加者1人あたりに要する経費 (円)	9,846			8,328
	算定式 事業費÷参加人数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

9

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)		9,902	11,135	11,981	14,034	16,500
② 財源内訳	森林環境税	9,902	11,135	11,981	14,034	16,500
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	総合的な学習の時間等において、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等に対して、学校独自の取組みをすすめるために補助する。
----------	---

⑦ 事業内容 (手段)

- 1 (学校) 申請書 (事業計画) の提出
- 2 (県) 申請内容に基づいて補助金の交付を決定
- 3 (学校) 計画書に基づく事業の実施
- 4 (学校) 報告書の提出
- 5 (県) 報告についての検査

【補助の仕組み】

```

graph TD
    A[高知県] -- 補助 --> B[市町村、市町村教育委員会]
    B -- 補助or 命達 --> C[小中学校]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成16年度
○森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。 ○木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。 ○近年、子どもたちが自然の中で遊ぶ機会は少なくなっている。		
⑤ 目的とわらい (成果)	<目的>森林県である本県の子どもたちに「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子どもたちが森林への理解や関心を深め広げ、将来にわたって山や森林を守り、大切に思う心を育む	
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民 (小中学生等)	

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

9

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績値
① 活動指標 (アウトプット)	学校数(校)	63			58
	算定式				
	算定式				
	算定式				
② II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数(人)	5,500			5,169
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費(円)	3,000			2,715
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
③ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

10-1

① 事業名	・ 細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・ 細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・ 当該事業名：森林環境税パンフレット等作成委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)	330	401	333	793	3,867
財源内訳	森林環境税	330	401	333	793
	一般財源				
	その他				

③ 主な事業内容	・ 森林環境税に関する広報素材 (パンフレット等) の作成
----------	-------------------------------

⑦	事業内容 (手段)
	<p>広報素材のデザイン及び印刷を委託形式により実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林環境税の趣旨や使いみちを県民に一層理解してもらうため、A4判両面チラシを2万部作成する。 ・ 森林環境税の事業分野毎の実績金額等のデータを元に、A3判両面2つ折チラシを2万部作成する。 ・ こうち山の日広報物品 (1,500部) を新規に作成する。 ・ 森林環境税の広報として、新聞の情報誌に6回掲載する。(1回につき200,000部発行) ・ 森林環境税情報誌 (マモリ) の副読本を1万部作成する。

④	<p>現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景) 事業開始年度 平成15年度</p> <p>平成28年度に行った県民世論調査において、森林環境税の課税期間延長に対する賛成意見が74.4%であったが、前回県民アンケートに比べると2ポイント低下しており、活用内容等も含めて森林環境税の認知度が低下しているものと推測される。</p> <p>このため、森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらい、同税の趣旨を浸透させていくためには、種々の広報媒体を活用して粘り強くPRしていく必要がある。</p>
---	---

⑤	<p>目的とねらい (成果)</p> <p>幅広い県民を対象に、森林環境税の目的や使いみちなどや森林の大切さなどをPRすることで、県民の同税への理解を促し、県民の「県民参加の森づくり」への自発的な参加のきっかけとなるツールとして活用することを目的とする。</p>
---	---

⑥	<p>対象 (誰、何を対象とするのか)</p> <p>県民</p>
---	-----------------------------------

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

10-1

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績見込値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	チラシ等の発行回数(回)	10			2
	算定式 1回+1回+1回+6回+1回=10回				
	A4チラシ1回、A3チラシ1回、副読本1回、新聞情報誌6回、広報物品1回				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	チラシ等の発行部数(部)	1,251,500			25,000
	算定式 20,000+20,000+10,000+1,200,000+1,500=1,251,500				
	A4チラシ2万部、A3チラシ2万部、副読本2万部、新聞情報誌120万部、広報物品1,500部				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1部当たりのコスト(円)	3.1			31.7
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

10-2

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税情報誌作成等実施委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

③ 主な事業内容	森林環境税やこうち山の日に関する取組など、森林や山に関する情報誌の作成等を行う。
----------	--

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成19年度
森林環境税を活用して、県民参加の森づくりを推進して来ているが、若い年齢層や子育て年齢層では森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。		

⑤ 目的とねらい（成果）	<目的>森林環境税を活用した事業の取組や、森林や山に関する情報を分かりやすく広く伝えることによって、県土の84%を占める森林の公益的機能やその大切さを県民各層が認識し、森林環境税への理解を深めてもらうこと
--------------	--

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民（特に①20～40代女性②小中校の全児童・生徒）
<理由>	①森林環境税のアンケートで認知度が特に低かったため ②次世代を担う子どもたちの啓発のため（親世代が①の対象である可能性が高いため）

事業費の推移		H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)	H28(決算見込額)	H29(予算額)
総事業費(千円)		6,366	6,564	6,399	6,861	6,861
② 財源内訳	森林環境税	6,366	6,564	6,399	6,861	6,861
	一般財源					
	その他					

⑦ 事業内容（手段）	<p>1 企画提案書を業者に提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結 2 編集会議を開催（年4回）し、前年のアンケート等を参考にしながら森や山に興味を持ってもらうための誌面内容を検討 3 夏（6月末）、秋（10月末）に各10万部を発行 4 県内を中心に各市町村、量販店、道の駅等と県内全小中学校の各家庭に教育委員会を通じて配布 （約2,400ヶ所）。</p> <p>【平成29年度予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行：21号、22号 各10万部 配布先：○県内の量販店、市町村役場、道の駅、県内全小中学校の各家庭など約2,400箇所 ○こうち山の日推進事業など森林に関するイベント など <p>（参考）平成25年度 森の機能について 平成26年度 川上のことについて 平成27年度 川中のことについて 平成28年度 川下のことについて 平成29年度 総括</p>
------------	---

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

10-2

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H29実績対目標
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	発行部数 (部)	200,000			200,000
	算定式 100,000部×2回				
	発行回数 (回)	2			2
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	読者数 (人)	100,000			100,000
	算定式 県内小中学校の全家庭及び 県内量販店等への配布				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	発行一回当たりの経費 (円)	3,430,500			3,430,500
	算定式 総事業費÷年間総発行数				
	一部当たりの経費 (円)	34.3			34.3
	算定式 総事業費÷年間総発行部数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

11_1

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料 ：ホームページ保守委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)		1,625	949	968	2,224	2,922
② 財源内訳	森林環境税	1,625	949	968	2,224	2,922
	一般財源	[※H25～H26の金額には、作業安全研修を含む]				
	その他					

③ 主な事業内容	1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催 2) 取り組みの広報 3) 公式ホームページの構築
----------	---

⑦ 事業内容 (手段)	<p>1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①森林保全ボランティア活動の企画・運営 ②ホームページにより活動内容を広報 <p>2) 公式ホームページの保守</p> <p>1) は、こうち山の日ボランティアネットワークへ委託 (2,628千円)</p> <p>2) は、ホームページ保守業者に委託 (294千円)</p>
-------------	--

④ 現状と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
<p>「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開している。</p> <p>森林保全ボランティア活動に対する広報が十分ではないことから、近年参加者が減少していることもあり、平成27年度に公式ホームページ「森・ヒト・こうち 応援ネット」を開設し、森林ボランティア活動への広報を積極的に実施している。</p>		

⑤ 目的とねらい (成果)	<p>幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。</p> <p>「森・ヒト・こうち 応援ネット」に県民参加の森づくり活動に関する情報を一元的に掲載し、イベント検索機能を付加することで利用者の利便性を高め、森林保全ボランティア活動への参加者を増やす。</p>
---------------	---

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

11_1

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	森林保全に関する活動回数(回)	21			13
	算定式 こうち山の日関連イベントを含む				
	こうち山の日関連イベントの開催(回)	1			1
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数(人)	400			349
	算定式 15人×20回+100人				
	森林ボランティア活動20回(15人/回) こうち山の日関連イベント1回(100人)				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費(円)	7,305			6,373
	算定式 2,922,000円÷400人=				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

11-2

① 事業名	・ 細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・ 細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・ 当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

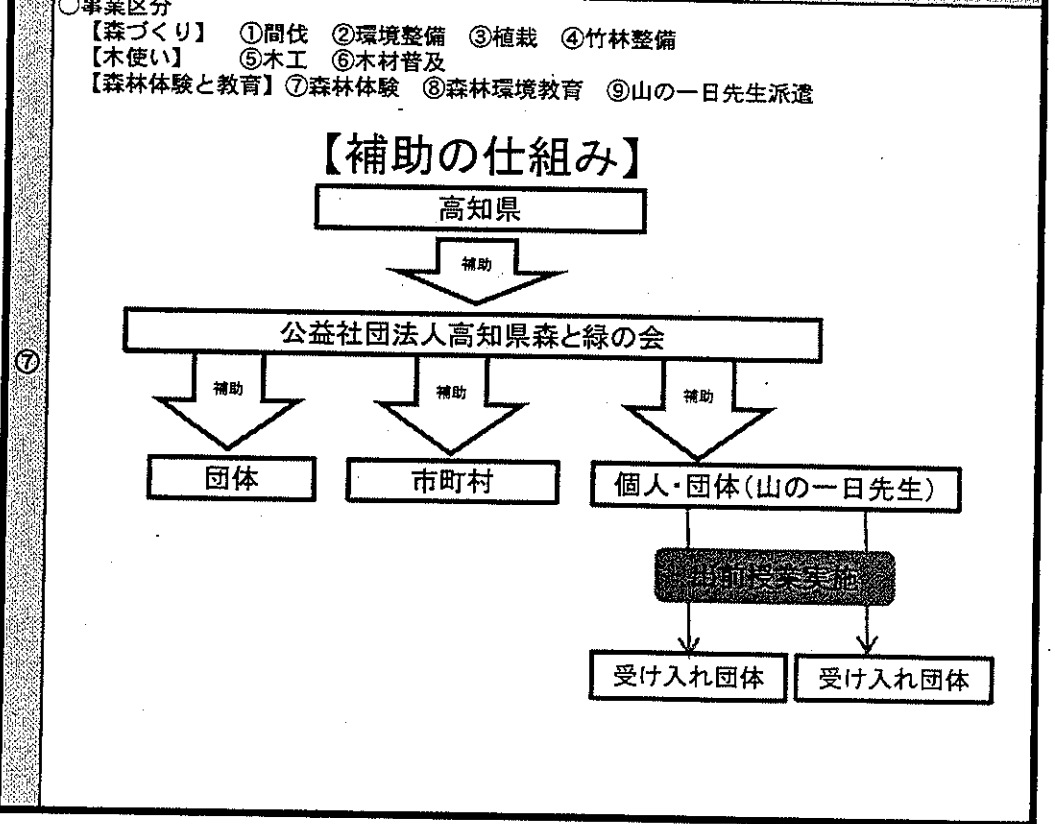
事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)		11,306	8,874	8,680	11,563	11,563
② 財源内訳	森林環境税	11,306	8,874	8,680	11,563	11,563
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業、山の一曰先生支援事業に取組む団体に対して補助する。
----------	--

事業内容 (手段)

- 事業区分
 【森づくり】 ①間伐 ②環境整備 ③植栽 ④竹林整備
 【木使い】 ⑤木工 ⑥木材普及
 【森林体験と教育】 ⑦森林体験 ⑧森林環境教育 ⑨山の一曰先生派遣

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
○人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や森を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日 (11月11日)」が制定された。 ○「こうち山の日」に対する県民の認知度は必ずしも高くないため、継続的に普及啓発をしていく必要がある。		



⑤ 目的とねらい (成果)	<目的> 「こうち山の日」制定趣旨に基づく取組を支援し県内各地で森林に対する普及啓発を行うことによって、県民の山への理解と関心を深める。また、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、自ら行動することによって山を守り次代へと引き継いでいくことを推進する。
---------------	--

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	亀川
内線	3140

11-2

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績見込値
⑤ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	事業回数 (回)	135			135
	算定式				
	算定式				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数 (人)	11,000			10,696
	算定式				
	算定式				
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費 (円)	1,051			1,081
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑤ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

当初・中間・実績

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

12

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：運営委員会等開催費 ・当該事業名：事務費
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)
総事業費 (千円)		835	622	733	1,597	1,685
② 財源内訳	森林環境税	835	622	733	1,597	1,685
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
----------	-------------------------------------

⑦ 事業内容 (手段)

森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

【主な取り組み】

- ・基金運営委員会の開催 年5回
- ・現地視察 年1回

森林環境税による事業の仕組みについて

```

    graph TD
      A[県民] -- "県民税均等割の超過課税(森林環境税)と、同税の趣旨に賛同して寄せられる寄付金" --> B[積立]
      B --> C[森林環境保全基金]
      C -- "基金からの繰入金" --> D[森林環境を保全する事業]
      D -- "県民意見の反映・透明性の確保" --> E[基金運営委員会]
      E -- "県民の意見を採択に反映" --> A
  
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度
---------------------------	--------

⑤ 目的どわらい (成果)	森林環境保全基金の運営を適正に行う。
---------------	--------------------

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初)中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	東 英史
内線	3140

12

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	委員会等開催回数(回)	6			4
	算定式				
	基金運営委員会・・・5回 現地視察・・・1回				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	延べ委員出席者数(人)	60			34
	算定式 委員10人×6回=				
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	委員会一日一人あたりに要する経費(円)	28,083			46,971
	算定式 1,685,000円÷60人=				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	小路口 聡
内線	4571

13

① 事業名	・細目事業名：林業学校研修費 ・細々目事業名：短期課程研修費 ・当該事業名：林業学校研修業務等委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算見込額)	H29 (予算額)	
総事業費 (千円)			670	1,420	1,553	27,603	
② 財源内訳	森林環境税			599	754	221	
	一般財源	[※H25, H26の作業安全研修はこうち山の日県民参加支援事業でも実施]					26,998
	その他		670	821	799	384	

③ 主な事業内容	・伐木作業等（初級）や車両系林業機械等の操作等（中級）にかかる研修の実施
----------	--------------------------------------

④ 事業内容（手段）	
伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる研修を委託研修により実施 （委託先：（公財）高知県山村林業振興基金）	
<ul style="list-style-type: none"> ・初級者研修（伐倒木の業務に係る特別講習）定員15名×1回 学科・実技2日間、現地実習2日（現地実習はいずれか1日に参加） ・中級者研修（走行集材機械の運転業務に係る特別教育）定員10名×1回 学科・実技2日間 ・中級者研修（小型移動式クレーン運転技能講習）定員10名×1回 学科・実技3日間 ・中級者研修（玉掛け技能講習）定員10名×1回 学科・実技3日間 	
受講料は無料。ただし、テキスト代は参加者が負担。	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> 初級1回 → 森林環境税 中級1回 → 森林環境税 中級2回 → 森林・山村多面的機能発揮対策交付金
平成28年度までは林業環境政策課の事業（森林保全作業安全研修委託料）として実施していたが、事務事業の見直しに伴い、森づくり推進課へ所管替えを行い、林業学校の短期課程へ組み込み実施することとしたい。	

④ 現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成17年度
ボランティア団体の中には、搬出間伐を行うところもあり、また、国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用する活動組織も増えている（H25：42団体→H27：67団体）。経験の浅い方が森林で作業する機会も増え、参加者の安全を確保するため、安全研修を充実させる必要がある。		

⑤ 目的とねらい（成果）	森林保全ボランティア活動を行う方を対象に、伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる安全衛生に関する知識や技術の向上を図ることによって、現場の事故防止につなげることを目的とする。
--------------	---

⑥ 対象（誰、何を対象とするのか）	県民
-------------------	----

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初) 中間・実績

担当課・係名	森づくり推進課
担当者	小路口 聡
内線	4571

13

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H29実績算定値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	作業安全研修 (回)	4			4
	算定式 初級2回、中級2回	初級2回 中級2回			初級2回 中級2回
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	作業安全研修受講者数 (人)	45			18
	算定式 初級15人、中級30人				初級10人 中級8人
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費 (円)	4,911			41,889
	算定式 $221,000円 \div 45人 =$				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当書記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成29年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	川村 典正
内線	4592

14

① 事業名	・細目事業名：県産材需要拡大対策事業 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	木材利用

事業費の推移	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	H28 (決算額)	H29 (予算額)	
② 総事業費 (千円)	42,871	32,134	33,190	34,279	33,279	
財源内訳	森林環境税	42,871	32,134	33,190	34,279	33,279
	一般財源					
	その他					

③ 主な事業内容	・県内の公共的施設や学校施設、屋外景観施設等において県産材を活用した施設の整備や木製品の導入などに対して支援
----------	--

⑦ 事業内容 (手段)
①公共的施設整備 ・補助内容：木質内外装整備等 ・補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等 ・補助率：1/2以内 (補助金額25千円以上、限度額 4,000千円)
②学校関連環境整備 ・補助内容：学校等の木質化内外装整備及び木製の机、椅子、遊具などを導入 ・補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等 ・補助率：1/2以内 (補助金額25千円以上、限度額4,000千円)
③屋外景観施設等整備 ・補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備 ・補助先：市町村、団体等 ・補助率：1/2以内 (補助金額50千円以上、限度額4,000千円)

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
<p>長引く木材価格の低迷等により、間伐などの手入れがされず荒廃森林が増加。木を使うことにより持続可能な山の暮らしを支えるとともに公益的機能の発揮される森づくりの支援が必要。</p> <p>森林環境税2期目の平成20年度から次世代を担う子ども達への木とふれ合う機会の提供及び不特定多数の方が訪れる公共的施設の内外装整備による木の良さの普及を図り需要拡大につなげるため、小中学校等への木製の机、椅子等の導入、公共的施設の内外装整備に対して支援。</p> <p>平成21年度からは、バス待合所整備等にも対象を拡大し、平成22年度に「木の香るまちづくり支援事業」に一本化。</p> <p>平成27年度は、公共的施設3箇所、学校関連施設30箇所、屋外景観施設6箇所支援を行った。</p>		
⑤ 目的とねらい (成果)		
<p>(目的) 木の良さをPRして需要拡大を図り、持続可能な山の暮らしを支える森づくりの支援につなげる。</p> <p>(成果) 木材の地産地消の意識が定着し、県産材があらゆるところで積極的に使用されている。</p>		
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)		
次世代を担う子ども達及び一般県民等		

平成29年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	川村 典正
内線	4592

14

指標の種類	指標名/算定式	H29目標値	H29中間値	H29実績値	H28実績
I 活動指標 (アウトプット)	補助金投入金額 (千円)	33,279			34,279
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	施設利用者数 (人)	333,113			266,008
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1人当たりPRコスト (円)	100			129
	算定式				
	1箇所当たり整備コスト (円)	1,039,969			623,255
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	

総合評価	説明 (担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	